

刃物
ミュージアム
(堺市)

みゅ〜
ザ・見遊じあむ

39



ミュージアムメモ

▶所在地／堺市堺区材木町西1丁目1番30号▶交通／阪堺線「妙国寺前駅」から南西へ徒歩約3分、南海本線「堺駅」から北東へ徒歩約10分▶開館時間／10時〜17時▶休館日／毎週火曜日▶入館料／無料▶問い合わせ／電話072-227-1001

堺の伝統産業である刃物を展示・販売しています。家庭で使う包丁の修理や、刃物に関する相談を受け付ける「刃物クリニック」も開設。展示室では、伝統的な手法で刃物を作る匠の技を映像などで紹介し、職人による「刃付け」の実演も行っています。「火造り」

匠の技にふれ

良質の刃物を展示販売

「刃付け」「研ぎ」といった伝統技術の工程や、古代から現代に至る鍛冶技術の歴史も学べます。展示室に併設する教室では、市民を対象にした料理教室など各種のセミナーを実施しています。堺は、料

其ノ鍛冶、出菌ノ口本成故、人呼テ出菌包丁ト云リ、今ニ至ル迄デ子孫不絶（貞享元年・1684年）と。良質の刃物を買うのならお薦めの店。刃物について、ちよつとした「物知り」にもなれる施設です。

ハッピーフライト



飛行機の表と裏で働く
群像をコミカルに

いまだき、一度も飛行機に乗ったことがないという人は少ないでしょう。飛行機を利用して、欠航やコース変更などのトラブルに出会ったという人もいます。しかし、飛行機の搭乗手続きから、機内サービス、フライトまで、どれだけ多くの職種や人間が関わっているかを考えることはほとんどありません。でも、この映画を観ると、パイロット、キャビンアテンダント、グラウンドスタッフ（カウンター業務など）、コントロールセンター、エンジニア、いかにさまざまな人間がそれぞれの持ち場で安全

のために奮闘しているかがよくわかります。「ダイハード2」「大空港」「エアポート」シリーズなど、これまで多くの飛行機や空港が舞台の映画がありますが、この映画ほど飛行機や空港で働く群像をとらえた映画は少ないと思います。この映画を観たあと、飛行機に乗るのがちよつと楽しみな気分になります。羽田発のホノルル行き1980便。この日は機長昇格への訓練中のパイロットが操縦。隣には教官のパイロット。地上では整備士が時間に追われながら点検。機内に乗り込む新人を含めたキャビンアテンダントのキビキビした動作、チケット発券カウンターでの苦情処理、コントロールタワー内での管制官たちの緊張感。悪いことに、羽田を飛び立った1980便にカモメが衝突、さらに、天候が急変、そしてエンジントラブルが発生します。さあ、どうする？1980便。上映時間は1時間43分のフライトです。

このシネマ

ガレィナ

大阪の戦跡を歩く

第38歩

謎のトンネル
(岬町)



発電所に面する小高い山。手前には捕虜収容所がありました



崩落が進み、入口はフェンスでふさがれています

多奈川発電所には戦前、潜水艦を作る造船所がありました。海に面する小高い山に長さ約150メートルのトンネルが残っています。今から18年前、元アメリカ兵が、大阪に住むアマチュア無線家との交信で「昔、タナガワというところで朝鮮の人たちとトンネルを掘らされていた」と証言して話題になりました。地元のお年寄りは「収容所から造船所に通う近道に使っていた」と言います。一方で「トンネルに人間魚雷『回天』を配備していた」という話もあり真相は不明です。現在は崩落のため立入り禁止ですが、保存を求める声があがっています。

津河内
和泉
三國誌
39
(大阪市中央区)

織田作之助と「夫婦善哉」

大阪・天王寺区に生まれ、1947年（昭和22年）に34歳の若さで世を去った作家・織田作之助は、太宰治、坂口安吾とともに戦後文学の旗手とも呼ばれました。戦前、国策に追随した既成文学に反発し、孤独な彷徨の日々を送りながら、次々と大阪を舞台にした小説を発表。1940年（昭和15年）に、次姉をモデルに描いた作品「夫婦善哉（めおとぜんざい）」が川端康成・宇野浩二らに推されて第一回「文芸」の推薦作になりました。化粧問屋の放蕩息子で親から勘当される柳吉と、芸者・蝶子との夫婦愛を描いたこの小説で織田は本格的な作家デビューをします。1955年（昭和30年）には森繁久弥、淡島千景の出演で映画化され、「頼りな



なにわ情緒が漂う法善寺横町



織田作之助の文学碑「行き暮れて、ここが思案の善哉かな」

い夫、しっかり者の妻」という「大阪の夫婦」のイメージが定着しました。最近、未発表だった続編の原稿が発見され、60数年目にして出版されて話題を呼びました。

「夫婦善哉」とはミナミの法善寺境内にある老舗の店の名で、一人前の「ぜんざい」を二つのお椀に分けて出すことからこの名が付きました。織田は、主人公の二人が、生活の苦難や、お互いの心のすれ違いをのりこえて寄り添い、いつしよに「夫婦善哉」を食べる場面をラストにしようとして浮かべて一気に書きあげたと言います。今でも冬のたそがれ時に法善寺界隈を歩くと昔ながらの情緒が漂います。ふと、映画のシーンにもあったように、柳吉と蝶子が背中を丸めながら連れ添う姿を見かけそうです。

いまも心に響く
名詩・名歌・名語録

君がいっしょに夢みてくれたら
世界はきっとひとつになる

ジョン・レノン

ビートルズのリーダーだったジョン・レノンの歌「イマジン」の一節です。この歌は1971年、ベトナム戦争が泥沼化していた時に発表されました。「天国も地獄もない、国境も、宗教も、財産も、そんなものはないんだと、想像してみよう。そうすれば平和な世界をつくれる」と。1980年12月8日はジョンが凶弾に倒れた日。今も世界各地で紛争は続いているが、「イマジン」は、平和を愛する多くの人に歌い継がれています。

あらたのし
思ひは晴るる身は捨つる
浮き世の月にかかる雲なし
大石内蔵助

忠臣蔵で有名な大石内蔵助の辞世の句。「思いを晴らして死んでいくのはなんと楽しいことよ。今宵見上げる月に雲が一つもかかっていないように、私の心は澄み切っている」と詠んでいます。吉良上野介を討ち、本懐を遂げた後、江戸・泉岳寺にある亡君（浅野内匠頭）の墓前で報告を終えた内蔵助が、寺僧に託した詩と伝えられています。47人の赤穂浪士が吉良邸に討ち入ったのは元禄15年（1702年）12月15日未明のことでした。